



石灰開祖碑

青木伝次の酬恩碑

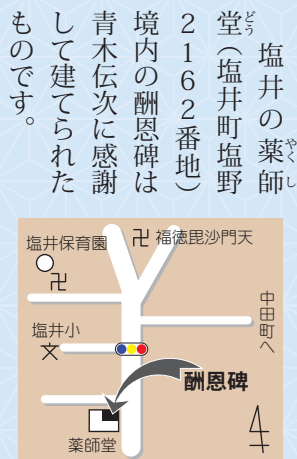
薬を売るかたわら、各地に情報や技術を伝えた富山の薬売りの功績と、その恩に厚く感謝する米沢人の暖かい心を示す石碑です。

今回は、塩井地区にある青木伝次の酬恩碑（恩に酬いる碑）と、山上地区にある石灰開祖碑を訪ねました。共に、米沢に新しい技術を伝えた越中富山の薬売りに感謝し、地元の人々によって建てられた珍しい石碑です。

塩井の薬師堂（塩井町塩野2162番地）境内の酬恩碑は青木伝次に感謝して建てられたものです。

伝次は慶応元年（1865）に越中（富山県）の農村に生まれ、農業に従事するかたわら、農閑期には越中富山の薬売りとして各地を行商しました。その行商中に塩井を訪れ、備中鉾で苦勞して田を耕す村人たちを見たのです。伝次の地元富山では既に馬を使った馬耕法が広まっており、その便利な技術を教えようと、明治32年に富山から馬耕機（富山犁）を持参し、その使い方まで指導しました。

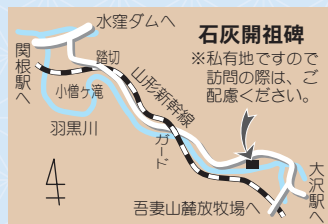
馬耕機は伝次と地元の鍛冶屋で改良が加えられて更に便利になり、置賜一円に広まって農家の重労働を軽減させ



あおきでんじ  
置賜に馬耕法を伝授  
青木伝次

『山上郷土史』によれば、篤之助は富山の薬売りで、茶屋・旅館を営む齊藤家に宿泊し、地元の人々に技術を教えていたといえます。関根の石灰鉾山も、篤之助の指導で開発されたのでしょうか。

その後、篤之助は齊藤家で亡くなり、教えを受けた29人が、その功績をたたえて石灰開祖碑を建て供養したのです。



一方、山上の石碑は大字大小屋清水の齊藤家の畑の中に、ひっそりと建っています。正面に「石灰開祖碑」「施主中」「越中国 篤之助」、碑が建てられた年号「明治十三年三月二十二日」が刻まれ、裏面には石碑を建てた地元の人たち29人の名前が刻まれています。

とくのすけ  
篤之助  
石灰鉾山の開発に尽力

ました。村人は伝次を「先生」と慕い、明治34年（1901）に石碑を建て感謝したのです。

時に伝次は36歳。その後、富山で村会議員となり、69歳で亡くなりました。この酬恩碑は、平成15年12月13日の「読売新聞」で全国に紹介され有名です。



第3回

## 富山の薬売りを 顕彰する石碑

しゅうおん ひ  
酬恩碑（塩井町塩野）  
せつかい かい そ ひ  
石灰開祖碑（大字大小屋）

パパがつくった りんごだよ！

11月16日、雨の合間を縫って成島ワクワランド付近のりんご畑へ行ってみました。写真、は「ふじ」の収穫期を迎えて大忙しの森谷さんご家族（六郷町西藤泉）。「今年の秋は天候に恵まれたので、出来栄は上々」とのこと。ぜひ、米沢の秋の味覚をご堪能ください。



表紙  
解説